

2020年4月実績概要(メモ)

(2020.5.21)

定期規模の増加と稼働率要因からエチレンをはじめ、各誘導品の生産も大幅な減産が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 465,400トン

前月比 +2.6% (+11,900トン)
 前年同月比 ▲9.7% (▲50,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	+ 2.5 %	▲ 5.1 %
能力増減	—	+ 0.1 %
稼働率変動	+ 3.3 %	▲ 4.7 %
生産増減率	+ 2.6 %	▲ 9.7 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月88.7% → 当月91.4% ← 前年同月95.7%
 定修プラント：前月2社2プラント → 当月2社2プラント ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減に加えて、定修規模差や稼働率要因が相合わさりPP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、BR、ベンゼンなどの10品目がマイナス。SM、EO、EG、AN、SBR、トルエンなどの7品目は、主に定修規模差からプラスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因等からLD、HD、PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの17品目全てでマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数の減少がある中、定修規模差や稼働率要因の増減要素が絡みLD、PP、PSはマイナス、HDは微増となった。

前年比では、定修規模の増加や稼働率要因から4樹脂揃ってのマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、LDでは、前月に減少したフィルム分野、ラミネート分野の出荷が当月は増加しプラス。一方、HDはパイプ分野等の出荷減少から、PPは、射出成形分野の大幅な減少からマイナスとなった。PSは、前月の出荷が一時的に増加した側面もあり当月はマイナスに転じることとなった。

前年比は、緊急事態宣言下の外出自粛に伴う個人消費の急減や輸送機械及び関連産業における断続的な工場の停止等の影響もあり、PEのフィルム分野、PSでの包装資材関連の出荷が減少するとともに、PPにおける産業用途向けの射出成形分野の出荷が減少し、4樹脂ともにマイナスとなった。

ハ) 輸出

前月比は、前月にポリオレフィンでは期末要因等から輸出の増加がみられたが、当月は減少しPSとともに4樹脂でマイナスとなった。

前年比では、前年の輸出量がPSを除いてやや低位であったことも関係し、LD、HD、PPでプラス、PSのみは逆にマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSの4樹脂で減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDは低下、PP、PSは上昇した。在庫水準としては、LD、HDはほぼ適正水準、PP、PSはやや高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LD	▲23,800	3.6	3.2
HD	▲16,800	3.1	2.9
PP	▲3,100	3.0	3.2
PS	▲1,000	1.7	2.0

以上